令和８年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 植竹 小学校 ）　　学校番号　０５４

学校教育目標	すすんでまなぶ子　　たすけあう子　　げんきな子
目指す学校像	○児童にとって学びがいのある学校　　○保護者にとって頼りがいのある学校　　○教職員にとって働きがいのある学校 ○地域にとって誇りのもてる学校

重点目標	1　デジタルの力でリアルな学びを支える授業実践 2　児童の心理的安全性を確保する生徒指導・教育相談の充実 3　学校と地域が一体となって取り組む教育活動の展開 4　教育活動全体の前提となる安全・安心な学校づくりの持続的な実践 5　キャリア段階Ⅰ、Ⅱの教職員を中心とした指導力（教科指導力・生徒指導力）の向上

※重点目標は６つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

【様式】

達成度	A	ほぼ達成　（８割以上）
	B	概ね達成　（６割以上）
	C	変化の兆し　（４割以上）
	D	不十分　（４割未満）

学校自己評価

年度目標

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
学びの質の向上に関する取組 1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査やさいたま市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均を大きく上回っており、良好な結果である。 ○学びの指標の結果より、ICT を活用した授業実践が徐々に定着しつつある。 ○教室訪問や公開授業等を見る限り、ICT 活用が効果的な手段になっているとは言い難い。 〈課題〉 ○デジタル活用はあくまでも手段でありゴールではない。その効果的活用がこれまでの具体物を用いた授業展開にどう近づけさせられるかが課題である。	・ICT の効果的活用に繋がる研修時間の確保	①教務主任、研修主任と連携し、ICT の効果的活用に係る内容について学期１回以上研修計画に位置付け、時間を確保する。	①学期１回以上、研修計画に位置付け、各教員の授業実践に繋げることができたか。
		・ICT の効果的活用も含めた問題解決型授業実践	①ICT の協働学習ツールの効果的活用を軸とし、これまで積み上げてきた指導方法（アナログ）とデジタルを効果的に融合させた授業を実践する。 ②授業実践後の振り返りの内容を全体で共有する時間を確保する。	①児童向けアンケート（学びの指標）の ICT に効果的活用係る項目において、肯定的回答が８割以上になったか。 ②授業実践後に全体で共有するための場（研究協議会）を実施することができたか。
子どもの発達や心のサポートに関する取組 2	〈現状〉 ○児童の学校評価アンケートでは、「いじめや悩みなどの相談に応じている」の項目の肯定的評価は 93.9%だった。 ○SC や SSW の積極的な働きかけ及び保護者との面談も相まって、児童と同様の質問内容の保護者アンケートにおいても 92.5%の肯定的回答を得られている。 〈課題〉 ○学校に登校できない児童や教室に入れずにさわやか学習室（Sola るーむ）に部分的に活用する児童が数名おり、不安解消に向けた取組が不可欠である。 ○教職員の入れ替わりが多く、児童や保護者と信頼関係を改めて構築することが必須である、	・児童の気持ちを最優先に考える生徒指導・教育相談の充実	①心と生活のアンケート結果を踏まえ、必要に応じ、面談を実施する。 ②おはようメータータイムを日課に位置づけ、それを活用した児童の心理状況の変化に着目し、教職員における共通理解及び、適切な声掛けや指導について研修し、実践に繋げる。	①児童向け学校評価アンケートの項目「いじめや悩みなどの相談に応じている」で肯定的回答が昨年度同様、または上回る肯定的回答になったか。 ②児童が安心して生活ができることを示す保護者向けアンケートにおいて昨年度同様、または上回る肯定的回答があったか。
		・児童の気持ちを大切にするための周りの大人（教職員と保護者）の共通理解、共通行動	①いじめや悩み等に迅速に対応するため、生徒指導、教育相談、特別支援に関する会議の確実な開催、及び適切な対応を実施する。 ②保護者向けの教育相談案内を定期で広報し、共通行動に繋げる。	①会議の定期的な開催のもと、ＳＣ、ＳＳＷ等と連携を図って、児童の支援、相談に応じることができたか。 ②保護者アンケート「いじめや悩みなどの相談に応じている」の項目の肯定的評価が昨年度を上回ったか。
地域とともにある学校づくりに関する取組 3	〈現状〉 ○ここ３年は、学校運営協議会を年３回開催し、学校の現状と課題、目指す児童の姿について、熟議を重ねた。 〈課題〉 ○目指す児童の姿を積極的に情報発信し、家庭、地域に広め、共に連携して児童を育成するという基盤づくりが必要である。また、昨年度より本格的に始動した「本物に触れる」をテーマにした SSN 等地域の教育力を活かした活動を軌道に乗せていくことが課題となる。	・学校運営協議会を中心とした学校と地域の連携からなる取組の充実	①学校運営協議会で協議した内容について学校だよりや学校 HP を通じて発信するなど、広報活動を行い、情報共有を図りながら教育活動を展開していく。	①情報発信に関する学校評価（保護者、地域）の肯定的評価が９割以上となったか。
		・地域の方々に御協力いただくことによる本物に触れる授業の充実	①人材バンク制度を生かし、授業にゲストティーチャーとして招聘できる専門性の高い人材を確保する。 ②SSN 協議会で地域の方々と共に協働できる活動プランについて話し合う。	①人材バンク登録者を確保し、ゲストティーチャーとして授業に招聘し、児童の探究的な学びに寄与する取組とすることができたか。 ②SSN 協議会を通して、地域人材の活用について協議する機会を設定することができたか。
教育環境の整備に関する取組 4	〈現状〉 ○学校評価アンケートの「きれいな環境づくりに心がけている」「安全・安心に気を付けている」のいずれ項目においても、児童、保護者、地域、教職員ともに９割以上の肯定的回答が得られた。 〈課題〉 ○１階北側の流しの詰まり、遊具の劣化、空き教室の整備、校庭の木々の剪定など、学校のハード面において早急に対応すべき課題がある。 ○経年劣化している施設の効果的修繕に向け、市教委との調整が必要である。	・安全・安心な学校生活を保障するための安全点検の実施	①毎月の安全点検を確実に実施し、必要に応じ、素早い対応をとる中で、事故を未然に防ぐ。 ②個人情報やその他教職員に係る事故防止に繋がる研修を実施し、学校は安全であるという基盤を再構築する。	①安全点検の結果に基づいて適切な対応を取り、児童の事故防止に繋げられたか。 ②教職員事故防止研修を校内で実施し、教職員事故を防ぐとともに学校は安心できる場所であることを立証できたか。
		・施設の老朽化に係る対応について、市教委等との連携	①施設の老朽化やその整備については、教育委員会との連携を図るほか、ＰＴＡボランティアや人材バンク等に呼びかけ、協力を仰ぐ。	①施設の老朽化またその整備についてしかるべき対応を取り、解決又は解決に近づくための方策を講じることができたか。
教職員のキャリア形成に関する取組 5	〈現状〉 ○昨年度は全教職員が１人１授業以上の公開を行い、互いに指導技術を高め合ってきた。 ○教職員は、「わ」（輪・話・和）を大切にし、「すべては子どもたちのために」を合言葉に互いに協力しながら勤務に当たっている。 〈課題〉 ○教職員の平均年齢が下がったこともあり、これからを担う教員に指導技術を伝えていく必要がある。 ○指導技術を高めるためには、心に余裕がないと進まないことから、市の取組（働き方改革マスタープラン）に基づき、業務量管理・健康確保措置を講じ、仕事とプライベートの時間をきちんと持たせる必要がある。	・指導者を招聘する研究授業の実施	①教職員の教科指導力を向上させるために教育委員会の指導主事等を招聘するなど、指導をいただきく機会を設定し、指導改善に繋げる。 ②管理職による教室訪問を通して、教職員の指導力向上に繋がる指導助言を適宜与える。	①指導主事を招聘する研究発表会を年２回以上実施できたか。 ②管理職が教室訪問を行い、必要に応じ、指導助言を与えることができたか。
		・各教職員の時間外在校等時間の把握をすることでの業務量管理の徹底	①年度当初に教職員との面談を通し、業務の行い方について話題に挙げ、時間を意識させる。加えて、年度末にその成果を確認し、持続的に取り組める仕事の仕方を考えさせる。 ②毎月の時間外在校等時間が多い職員には声掛けをし、必要に応じ声掛けと業務改善を提案する。	①年度当初、年度末に教職員と面談を行い、業務の行い方やその後の成果について話し合うことができたか。 ②教職員の毎月の時間外在校等時間を把握し、月３０時間を超えている教職員に声掛けや業務の行い方の提案をすることができたか。

年度評価

番号	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1			
2			
3			
4			
5			

学校運営協議会による評価

実施日令和　年　月　日

番号	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	
2	
3	
4	
5	